

令和2年度 第3回静岡市文化振興審議会議事録

- 1 日 時 令和2年12月3日(木) 14時~15時45分
- 2 場 所 静岡市役所 新館9階 特別会議室(葵区追手町5-1)
- 3 出席者 (委員)
遠藤委員、久保田委員、是永委員、佐々木(智)委員、
鈴木委員、田中委員、成島委員、平野委員
(市当局)
中島推進監、萩原文化振興課長、小山課長補佐兼文化交流係長
相羽まちは劇場推進課課長補佐、仲澤施設管理係長、島田主査、
福原主任主事、海野主事
(アドバイザー)
株式会社シアターワークショップ
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議内容 1 開会
2 議題
(1) 静岡市文化振興計画 後期実施計画 令和元年度実施事業評価 評価総括書について
(2) 静岡市民文化会館の再整備について
3 事務連絡
4 閉会

【会議録】

<p>萩原課長</p>	<p>定刻になりましたので、ただ今から、第3回静岡市文化振興審議会を開催させていただきます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、本日の審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>はじめに、本日の会議ですが、委員定数10名のところ、8名のご出席をいただいております、過半数に達していますので、「静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例」(以下、条例という。)第25条第2項の規定により、本会議が成立していることをご報告いたします。</p> <p>この審議会は、「文化振興計画の策定及び変更に関すること、文化振興計画の目標の達成度及び効果の検証および評価に関すること、その他、文化の振興に関する重要な事項」の調査審議を行なっていただくために設置されています。</p> <p>また、本日の傍聴希望者ですが、傍聴を希望される方はいらっしゃいませんでした。</p> <p>私は、進行を務めます文化振興課長の萩原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、お手元の次第のとおり、令和元年度実施事業の評価総括書、静岡市民文化会館の再整備の2つの議事についてご審議いただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>会議に先立ちまして、ひとつここでご紹介させていただきます。この審議会の委員でございます是永委員ですけれども、この度、令和2年度 静岡県知事表彰を受けられまして、分野としては教育・学術・文化スポーツ功労ということで、長年に渡りまして静岡市文化協会会長としての功績が認められた結果となりますので、僭越ですが私の方からご紹介させていただきます。(拍手)</p>
<p>平野会長</p>	<p>おめでたい、いい話ですね。</p>
<p>萩原課長</p>	<p>おめでとうございました。</p> <p>それでは、会議の方に戻させていただきます。静岡市文化振興審議会 平野会長よりご挨拶をお願いします。</p>

<p>平野会長</p>	<p>皆さん改めましてこんにちは。会が始まる前から新型コロナウイルスの情報交換が始まっていますけれども、市中感染も色々なところでクラスターが起きて、どこまでどういう風に注意すればよいのかなど不安に思うことがたくさんあるんですけれども、一方で、市美でやっている赤羽末吉展を拝見しまして、あれだけ真っすぐ絵に打ち込んできた人の力に圧倒されながら拝見しました。美術手帳という雑誌を皆さんご存知かもしれませんが、その美術手帳のテーマで「絵画の見方」という特集も組まれていて、改めて、世の中パフォーミングアーツや芸術祭などそちら側に流れて行きがちなんですけれども、それはそれで賑わいを作っていますし、色んな入口を作っている。一方で、絵画が持っている潜在能力というか一本の線の力みたいなものを、こういう時代だからこそ余計に力強く感じた次第でございます。</p> <p>様々なところで色んな工夫が行われて、オンラインで色んなものが行われるケースもありますけれども、やっぱり生のものを肉眼で拝見できる機会は、貴重な機会だなと改めて思った次第です。</p> <p>そんなことをお話して、議題に入らせたいと思います。</p> <p>議事の開始にあたりまして、議事録の署名人ですけれども、本日は私以外に田中委員にお願いしたいと思います。 ー田中委員了承ー</p> <p>それでは、早速ですけれども一つ目の議事に入らせていただきます。令和元年度実施事業評価 評価総括書について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>福原主任主事</p>	<p>まず一点目は、事業評価から全体評価までの流れが分かりやすくなるように、全体の構成を変更いたしました。</p> <p>詳細を見ていきたいと思いますので、資料1をご覧ください。</p> <p>計画全体の成果指標である『創造的人づくり』、『創造的魅力づくり』、『創造的にぎわいづくり』の視点ごとに評価を行う点は変わっていませんが、委員の皆さんが視点の中のどのポイントに基づいて、事業を評価しているのかが分かるように、各視点におけるポイントを表出しました。</p> <p>資料2をご覧ください。こちらの資料は、文化振興計画の冊子から抜粋したのになります。文化振興計画に記載されている各視点の中には、いくつかのポイントがあります。資料1に記載されているものは、このポイントをワード出したものになります。</p>

	<p>資料1に戻ってください。この「視点におけるポイント」に沿って、評価すべき点と改善すべき点を評価しているということが分かるように矢印で表記してあります。</p> <p>次に、前回「今後の方向性」となっていた項目を「今後の事業に期待すること」に変更いたしました。</p> <p>これは、今後の方向性と全体評価の意味合いが被ってしまっていて分かりづらいということと、今後の方向性に記載されている内容は、短期的な視点かつ具体的な事業を指している内容がほとんどであるため、内容と項目を一致させるために「今後の事業に期待すること」という表記に変更いたしました。</p> <p>最後に、今回の改善点の中で、新たに出てきた視点やワードを拾い上げ、この新たな視点をもとに全体評価に繋げるという構成になっています。</p> <p>二点目は、前回の審議会の中で、表現が強すぎる等のご意見が出たものについては、平野会長とすり合わせを行い、評価者の意図を逸脱しない範囲で言葉のトーンを揃えました。また、表現が分かりづらいものや順序、視点についても、整理しています。</p> <p>内容をご確認いただき、自分の意図する表現と違う等ございましたら、ご意見を頂戴出来ればと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>今回の皆さんの総括により、現在の計画に足りない新たな視点が見えてきました。この新たな視点は、現計画においては、事業ベースに組み込むにとどまりますが、2023年からの新計画に向け、計画の全体像の中に盛り込むべく、委員の皆さんと審議していきたいと考えています。説明は以上です。</p>
平野会長	<p>ただいまの事務局の説明に対し、ご意見、ご質問等はいかがでしょうか。</p>
鈴木委員	<p>前よりすごく分かりやすくなっていいと思います。</p> <p>もっとよく出来ないかなと思って見たら、「視点におけるポイント」ってありますけれども、これはなくても分かるんじゃないかなと思いました。出来るだけ字は減らした方がいい。視点におけるという言葉が少し難しいと感じたので。私の意見ですが、これがなくても分かるように私は思います。</p> <p>それから、下のところの「改善点における新たな視点」というのも、「次へのステップ」とか簡単な言葉で行けないかなと思いました。</p>

	<p>それから、赤字がポイントだというのは分かるんですが、「都市の」の「の」が赤字になっているのは何でなんだろうと、それが分からなかったです。</p>
福原主任主事	<p>赤字はポイントではなくて、前回の言い回しと変更したところを赤字にしてあります。</p>
鈴木委員	<p>そうなんです、すみません。</p>
平野会長	<p>そうですね。赤のところが最終的に黒字になるというイメージです。</p>
鈴木委員	<p>すみませんでした。私が思ったのはそのくらいで前よりもすごく分かりやすくなって、これだったらいいなと思いました。</p>
平野会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の鈴木委員のご意見について、皆さんはいかがでしょうか。</p> <p>特に視点のポイントや改善点における新たな視点などの不要、表現の仕方なんですけれども。</p>
田中委員	<p>これは、それぞれの創造的人づくり、魅力づくり、にぎわいづくりというそういう視点なんですよね。色分けしてあるから、確かに分かるので、「視点における」というのはあえて付けなくてもいいかもしれないですね。市役所的には、「創造的人づくりの視点」というのを掲げているから、あえて入れたいのかな。</p>
平野会長	<p>そういう訳ではないと思いますけどね。より分かりやすく、何がキーワードなのかというのを挙げて、内容に入っていくという流れになっているのかなと思います。</p> <p>他の委員の皆様はどんな風に感じますか。</p>
成島委員	<p>前回の、審議会の時からやや気になっていたんですが、障がい者やLGBTに対する企画というのが、かなり大きく新しく書いてあって、そのこと自体は、否定をしないものなんですけれども、では、実際にどういうものを、自分たちの事業の中で、企画するというときに、どういう事業を想定すればよいのか、今、不足しているという言い方になっていて、どういう事業なんだろうかというのが想像出来ているのかどうかというところが、やや気になっています。</p> <p>私は、舞台芸術というジャンルの中では、障がい者の方というのは、一緒に舞台を作るだとか、市民文化会館の舞台ですとか思い浮かぶんですけども、LGBTのところって、具体的にどういうことなんだろうかということが思い浮かばなくて、こ</p>

	<p>の間の会議が終わったあとに職場に戻って、他の同僚ともどういふことをしたらいいんだろうという話をしたんですけども、自分たちのところではない話で、批判しているとかではないんですけども、市民文化会館さんでやっていらっしゃる市民参加型の舞台上、男性だけ女性だけの企画みたいなものがあると思うんですけども、ああいうものだと、どっちに自分が入っているのか分からないというような現象が起きるといふ話が出ました。</p> <p>それは、なるほどと思ったり、排除しているつもりはないんだけども、無意識のうちに排除してしまっている現象はあるんだろうなといふことは思いました。</p> <p>そこでやっと、自分たちの事業の中にこの言葉を落とし込めたんですけども、これだけ全体評価の中でひと段落使って書いているので、具体的にどういふものを想定しているのか、どれくらい皆さんが実感としてあるのかなといふのが、言葉が走りすぎていないかなといふのを感じています。</p> <p>それは、企画が不足しているといふ言い方よりも配慮が不足しているといふ言葉にした方がいいのかもしれないし、実際に、それだけの事業をそこまで起こしていくのかといふ具体性が皆さんどうでしょうか、といふところなんですけれども。</p>
平野会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>まず、成島委員にご意見をいただいたんですけども、その前に、鈴木委員にいただいたご意見のポイントのところが必要かどうかといふところを整理しましょうか。</p>
成島委員	はい、分かりました。
久保田委員	<p>視点については、お任せといふか、「視点」といふ言葉が使いたいのかなといふ、上も下も同じ「視点」じゃないですか。他の文章との整合性を取るために「視点」が入っていた方がいいよといふのであれば、それでいいかと。</p> <p>確かにこの文章だけ見るとしつこいですよね。</p>
平野会長	はい、事務局中島さんお願いします。
中島推進監	<p>ベースのこの冊子に引っ張られているので「視点」といふ言葉を使っています。</p> <p>今回何を意識したのかといふと、文章仕立てで計画が出来ていますがけれども、今文化政策全体をロジックのツリーに落としていまして、それを意識したものですか</p>

	<p>ら、今回こういう整理になっています。ツリーにして分かりやすくしたものですから、そこまで言葉に引っ張られなくてもいいかなと思っています。</p>
平野会長	<p>私なんか逆にあっていいかなと思いますけど。導入口としてね。</p>
萩原課長	<p>私たちも文化振興計画の中で「視点」という言葉を使っていたものですから、どうしても計画に立ち戻ったときにこの「視点」という言葉があった方がひととおり繋がっていくかなという考えだったものですから。</p> <p>ここは、事務局と平野会長で分かりやすい方で対応させていただきます。</p>
平野会長	<p>はい、鈴木委員、それでよろしいでしょうか。</p>
鈴木委員	<p>はい、大丈夫です。お願いします。</p>
平野会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>すみません、成島委員、お待たせいたしました。成島委員のLGBTに対する具体的な行動というのがイメージ出来ない、言葉だけが先行しているというようなお話で、企画が不足しているというような書き方になっているんだけど、ひとつご提案として、「配慮が」という言葉に変えてみたらどうかというご意見を頂戴しました。</p> <p>その辺は皆さんいかがでしょうか。</p>
田中委員	<p>賛成ですね。私ども美術館の方でも、障がい者への配慮はしているつもりなんです。LGBTに対しては、あえてしていないです。今のところそういう必要を感じていないので。</p> <p>事業や企画となると中々難しいですよ。</p>
平野会長	<p>つまり、美術館では、企画についてそこにはまだ具体的に動いていないということですよ。「配慮」という言葉でしたら、先を見ながらここに入れておいてもいいという考えでしょうかね。</p>
遠藤委員	<p>LGBTに関して、たぶんその裏にある言葉があって、LGBTの対象になる方々が声を挙げ始めているというのがあって、例えばそれは何かというとアンケート用紙に男か女かと書かなければいけないと、そのものが違うでしょという、そういう小さなところからきているんじゃないのかなと思います。たぶん配慮とするとそのくらいかなと思います。</p>
田中委員	<p>最近、そういうアンケートなんか敏感になっていて、工夫していますよね。</p>

遠藤委員	そうですね。結構やっぱり声を挙げるのが、最近の情報発信の形になってきているので。
平野会長	<p>一時、男か女か、女か男かというね。そこら辺の配慮というか、二者選択ということに皆さん敏感になっていますよね。</p> <p>ですから、ここは成島委員のご指摘のとおり「配慮」という言葉に変えさせていただくということによろしいでしょうか。</p>
久保田委員	ただ、これは文章的には上段に「配慮を確認できた」という言葉があるので、2つ被ってしまうので…。言葉尻の問題ですけれども、イメージとしては確かに「企画」と「配慮」は全然違うので、配慮でいいんですけど、上段の「配慮」と上手く整合性が取れば。
萩原課長	<p>今久保田委員にご発言いただいたとおり、最近私たちも事業の中で「障がいのある人と一緒に」という事業はやっと取組ができるようになってきたものですから、上の部分を「特別支援学校への『取組』は確認できるけれども」とさせていただいて、LGBTへの企画は私たちもまだまだ考えられていない部分もありますので、先程遠藤委員からもご発言のありましたアンケートについては、全庁的に男女だけではなくて「その他」とか、答えたくない方もいらっしゃいますので、アンケートにつきましてはそういった形で「配慮」の部分では全庁的にしてきています。ですけれども、LGBTを対象とした企画を事業化するとしますと、そこまでは考えられていない状態であると思いますので、その部分については、「配慮が不足している」という形にさせていただいて、上の部分については、「取組」とさせていただければいいかなと思いました。</p>
平野会長	<p>LGBT そのものを考える配慮はあったとしても、企画が出来ているかという点、直近の話というかここ数年の話だとまだ途中かなということで、ここは「配慮」という言葉に変えさせていただきます。ご提案ありがとうございます。</p> <p>他にはいかがでしょうか。</p>
久保田委員	創造的魅惑づくりの中の改善すべき点のところ、 「国際的なイベントが育ってきている一方で、それを迎え入れるための住民のコミュニケーション能力や宿泊環境不足、個性的な宿泊施設などの環境が整っていない。」という部分ですけれども、旅館組合の理事長として言わせていただくと、実は、ホテルの数もかなり増え

	<p>てしまっているの、それにも関わらずこのコロナ禍で大変なんですけれども、そういう状態になっているので、個性的なというと確かにそうなんですけれども、民需のどこまで本当に商売になるのかということと密接に関わっているものですから、これを改善すべき点として挙げてしまうことを心配に思っています。</p> <p>これは、20年以上前から文化ではない観光関係で当時必ず言われたのが「静岡は泊るところがないので、大きなイベントが出来ません。」というのを割と理由に使われたんですね。例えば市議会の先生方も泊るところがないから国体が呼べないとか色々言われて我々が加害者というか、お前らしっかりしろという話になっていたんですが、それはもう、知らないうちに解消はされていたんですが、実はこういうのを見るときに、そういう昔からの議論を引きずっている部分があると思うんですね。</p> <p>何と比べて少ないのか、箱根と比べて少ないんですか、伊豆と比べて少ないんですかって話になるんですね。それは、向こうは完全な観光地ですから、そこと比べて静岡が少ないのは当たり前ですから。じゃあ例えば岡山と比べてどうなんだとか、富山と比べてどうなんだとか、それくらいの感覚で比べると静岡は十分にあると考えていいのかなと思ってます。</p> <p>住民のコミュニケーションとかはそこまで踏み込んで考えていないですけども、これを特に今のコロナという時期を踏まえても今改善点として言うのはいい時期じゃないかなと思います。</p>
<p>平野会長</p>	<p>タイミングの問題とこれまでの歴史的な背景ですね。</p> <p>久保田委員は、これを削除した方がいいということでもよろしいでしょうか。</p>
<p>久保田委員</p>	<p>そうですね。現状認識として「整っていない」とまで書くのは、果たしてどうなんでしょうと。誰かの意見であるということは分かるんですけど、例えば、国際的な水準でこれくらいいいホテルがほしいよねと思っていらっしやって、でもそれが東京にはあるけど静岡にはないというなら分かるんですよ。でも、それは静岡に本当に必要で、ちゃんとペイするものなんでしょうかと、ないものねだりになってしまふんじゃないかなと。そういう意味で、ここはちょっと宿泊業界としては、そんなこと言われてもなと思ってしまいます。</p>
<p>平野会長</p>	<p>そうですね。今の久保田委員のご意見に対して皆さんはいかがでしょうか。</p>

成島委員	何となくこれは文化事業の改善すべき点という話の中で、やや違う、自分たちではどうにも出来ないこととか、市の文化事業でどうにか出来るということでもない事が入っているのかなという意味では、削除してもいいのかなと。
平野会長	そっちの方がウェイトが大きいような意見だということですよ。
久保田委員	<p>現実問題としては、ホテルオーレさんが出来たりとか、日本平ホテルさんが出来たりとか、東横インさんが出来たりとか、いっぱい出来ていますので、他都市と比べて見劣りするという状態はもう10年くらい前の話だと思うんですね。人口に比してのホテルの数、それから量も質もですね。今はもう東京並みのチェーン店が出て来ていますので。そう考えるとこれは、論としてあっていないんじゃないかなと思います。</p> <p>その上のコミュニケーション能力については、別だと思いますけど。それは、静岡人が来た人とコミュニケーションするかどうかの話ですから。</p>
平野会長	今この中を見ると、コミュニケーションの問題と宿泊という2つの問題が入っているんですよ。ここを久保田委員のご指摘がありましたけれども、宿泊の方を取って、コミュニケーションの方を活かしていくという形ではいかがでしょうか。
久保田委員	そうしていただけると。
平野会長	皆さんよろしいでしょうか。
各委員	了承
平野会長	<p>では、そのようにさせていただきます。</p> <p>ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>では、この計画についてご承認いただけるということで、よろしいでしょうか。</p>
各委員	了承
平野会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、議題2の方に移らせていただきます。「静岡市民文化会館 再整備について」事務局よりご説明をお願いします。</p>
島田主査	<p>静岡市民文化会館再整備について説明致します。</p> <p>前回の審議会において、静岡市民文化会館再整備に係る基本理念について審議いただいております。引き続きの審議とするため、会長から委員の皆さまに、基本理念について検討をお願いしておりますので、今回も引き続き、基本理念についてご意見をいただき</p>

	<p>たいと思います。審議の前に、基本構想・基本計画策定のため、市民の皆さまから、現在の検討内容に対するご意見や、よりよくなるためのアイデアをいただくため、全3回の市民ワークショップを開催しておりますので、概要を説明致します。</p> <p>まず初めに、お手元のチラシをご覧ください。</p> <p>ワークショップ参加者につきましては、公募及び地元町内会の代表者を合わせ、28名の方の申込がありました。チラシにありますとおり、第1回を11月12日、第2回を先週の11月26日に予定どおり開催しております。</p> <p>第1回は、当日使用した「資料3」にありますように、「創造的改修について考える①」と題し、文化会館の、建物の改修案をテーマとしました。また、「資料6」は、改修内容の図となります。</p> <p>第2回は、「資料7」にありますように、「創造的改修について考える②」とし、文化会館の広場の改修内容、敷地の動線、駿府城公園周辺エリアとのつながりについて話し合いました。</p> <p>第1回話し合いをまとめたものが「資料5」のかわら版「いいら！！」です。また、第1回の際に参加者からいただいた意見、質問への回答が「資料4」です。これらを、ワークショップの開催の都度作成し、参加者に配布しております。また、市ホームページにおいても、資料とかわら版を掲載しております。</p> <p>詳しい資料の説明につきましては、基本計画等策定業務の受託者である株式会社シアターワークショップからご説明致します。</p>
<p>※シアターワークショップ</p>	<p>今日は、資料がたくさんあるので、簡潔に説明させていただきます。</p> <p>先程も説明がありましたとおり、1回目のワークショップでは建物の中を中心に話合っていました。2回目については広場を中心に話合っていました。いずれのホールも機能は当然のことながらきちんと高める、その上で、普段利用者でない方も訪れていただくためには、どうしたらよいかというところに視点が置かれているのかなと思います。中でも中ホールについては少し議論が沸騰したところでございまして、今こちらの資料6の改修フロアマップを見ていただくと分かると思うんですが、展示室Bについて、機能を変更して小ホールにしますということで130席程度のブラックボックスを検討していますというご説明を第1回でさせていただいております。大会議室については、中ホールとどうしても舞台上の部</p>

分の壁が接しておりますので、音が遮音しきれないということから、そこに配慮しながら、小編成の音楽ですとか、展示だとかということで、今より機能、使い勝手をアップしていきましょうということでご提案申し上げておりました。今も300席強ございますので、同等の収容数ということで表記しています。

この2つをどう使い分けていくかというのが、皆さん130席では少し小さいという意見が市民の方多かったので、小ホールだけではなく大会議室をもっと小ホール機能として高めていくことですか、2つ小ホールがあるんだよというイメージで、どう作っていくかというのが、館内については課題なのかなと考えております。

そして、施設外につきましては、開かれるにはどうしたらよいかということと、まちと繋がるにはどうしたらよいかという点についてご議論いただいたのですが、ご意見の中で面白かったのは、「バリアフリーだからといって完全に真っ平にするのではなくて、ちょっと危険があった方が冒険できる要素があるんじゃないか、ちょっと山があった方がこの向こうに何があるんだろうと、ワクワクして行きやすいし刺激になるのではないかと、若い方だけではなくてご年配の方から聞かれたのが特徴的でした。

あとは、開かれていこうとするアイデアを出す方と、芸術文化施設としての性格をより強めていくことで、存在価値を高めていくんだというご意見が2つ見られたのも特徴的でした。

では、ワークショップの内容を先に説明しましたが、改修フロアマップをもとにおおまかな現時点で検討している改修内容を報告させていただきます。

下から参ります。大ホールですけれども、舞台設備をひとつお更新します。今舞台機構が手動で綱もとを引っ張るものが上手にあるんですけど、それがなくなることで、だいぶ上手は広くなります。そこにピアノ庫を下手から上手に持って行って、増築したいと考えているんですけども、それによって下手を結果的に空けていくということをして、舞台というのは下手からの出入りする性格なものですから、そこをいい空間にしていきたいなと考えております。

あとは、今この時代の建築ですからプロセニウムという舞台の額縁をこの建物の限界まで出来るだけ高くしまして、クラシックなどの生音の反響をよくしていこう

と考えております。あとは当然のことながら特定天井についても対応して参ります。

あとは、客席椅子を大中小更新するんですけれども、一般的には客席の幅、前後列の幅などを広げますので、席数は減る改修となりますけれども、ここについては、大ホールは2,000席だということがひとつのポテンシャルだと捉えているので、脇花道を仮設化するだとか工夫をする中で2,000席を確保しようと検討させていただいております。

あとはトイレが、昨今の劇場と比べるとかなり少ないということで、これについても倍増までいけるか、どの程度増やせるかという検討をさせていただいているところでございます。

中ホールについては、今ご説明させていただいた内容とほぼ同じでございます。あとは、ホワイエにそれぞれエレベーターを付けようと考えております。これは、今は2階席に上がるには階段しかなくて、2階席に車いすの方、足の悪い方が上がるのが困難でありますので、これに対応するものでございます。

上の方に行きまして、2階の会議室エリアですけれども、第3会議室、今は役員椅子があって、円卓になっていますけれども、市民の方は立派すぎて使いづらいというご意見が多かったものですから、これについては、普通の会議室に変更したいと考えております。第1と第4会議室は、防音機能を高めて練習室にしようという方向で検討しております。今和室になっている第5・第6会議室については、和室ではなく普通の会議室に変更していこうと考えております。これによって会議室の総数としては、変わりなく練習室を増やし、和室については、ワークショップの中では残してほしいというご提案もございましたが、周りにも和室を持った施設がございますので、そちらを使っただきたいというご提案を申し上げます。

上に行きまして、レストランがかつてあった場所ですけれども、今はラウドヒルさんの倉庫になったりしている部分なんですけど、そちらについても、かなり大きい空間になりますので、防音機能を高めて大練習室として作ったらどうかと考えております。

展示室3つあるうちの1つは、先程ご説明したとおり、Bについては、小ホール機能、ちょっとした上演が出来る、もちろん練習としても使える平土間のホールと

して整備しようかなと考えております。AとCの展示室については、大ホールと接しているので、中々防音機能を高めていこうということは難しいものですから、元々の展示室としてより性能を高めて行きましょうということです。大会議室については、先程ご説明したとおりです。

建物の中については、今申し上げたとおりで、建物の外については、資料7をご確認ください。

改修の全体イメージ案というページがあるんですけども、13ページですね。広場の部分ですけど、駐車場の上の部分、人口台地については、開放的な空間づくりということで、今道路側に高木が立っていて、かつ、広場の部分は段々があったり、駐車場からの排気口の周りに植栽があったりして、閉鎖的な空間になっているものを、高木を低木に変えたり撤去したりして道路から視野が開けるようなつくりにしていこうと考えております。

修景広場、北街道側ですが、それについては、再整備をする中で、ここに大型バスを停めることも求められていますし、何かの際の避難場所ということも求められていますので、駐車スペースとしても使える空間として整備させていただきたいということで考えております。

大ホールの前のロビー拡張部と書いてあるところについては、今増築が出来ないかを確認している段階でございます。これによって大ホールのもぎりに入る前の空間を残したい、チケットを切ってもらう前に滞留する場所、かつ、日常的にふらっと来た方が時間を過ごせる場所を確保したいと考えております。また、これがロビーと中ホールに繋がっていることで、ホワイエに何かを持って行こうとする時に、裏側の入口からバリアフリーで物を持って来られる導線が確保出来るということです。

あとは先程申し上げた、日常的にふらっと来た方が滞在するスペースをより拡張したいということで、増築を検討しております。

また、駐車場から上に上がるエレベーターも今ないので、それについても、設置場所を検討しているところであります。

あとは、今ロビー部分に喫茶があるんですけども、事業があるときにしか開かないという風になっておりまして、中々利用が期待しづらいというところがありま

	<p>すので、カフェなのか、コンビニなのかというのは今後の検討としまして、広場に出して来ようということで検討しております。</p> <p>広場については、手前側、あまり駐車場に負荷のかからない部分については、芝生を載せて芝生広場にして、駐車場の屋根になっている部分については、芝生は重さに影響がありますので、イベント広場としてステージを設けたいと思っております。ここに車両が載るかどうかについては、まだ耐震診断を待っているところなんですけれども、載るとなったらキッチンカーが来たりというシーンを想定しているところです。</p> <p>簡単ではございますが、以上です。</p>
島田主査	<p>次に、「静岡市民文化会館再整備の整理(案)」をご覧ください。</p> <p>先程説明にもありましたように、文化会館は、昨年度に策定した再整備方針において、創造的改修によるリニューアルを行うこととしました。</p> <p>創造的改修のポイントは、次の3つであると考えております。「1. 大、中ホールの機能の向上」、「2. 創作活動支援機能の付加」、「3. 日常利用、居場所づくり」</p> <p>また、改修により生み出される価値として、「1. 機能的価値」と「2. 情緒的価値」として分析、整理していく必要があると思っております。</p> <p>以上を踏まえ、生まれ変わる市民文化会館がどのような理念の基に再整備及び運営をしていくのか、これを象徴する理念についてのご意見、アイデアをいただければと思います。ワークショップに関するご質問等もありましたらお願いします。</p> <p>静岡市民文化会館再整備の説明につきましては以上です。</p>
平野会長	<p>ありがとうございました。まず、只今のご説明に対してのご質問があればお受けしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。</p>
田中委員	<p>ホールの2,000席と1,100席確保するという席数変えずに改修すると、前後左右とあと何て仰ったかな、脇の…</p>
横シアターワークショップ	<p>脇花道ですね。脇花道というのは、踊りの人が出たり入ったりする場なんですけれども、すべてのご利用が踊りではないので、踊りの時は椅子を除けてそれを仮設で組み立てるという対応を考えることで、普段は脇花道がない状態を作れるとその分横に伸ばせるということになります。</p>
田中委員	<p>大ホールだけの話ですかね。</p>

機シアターワークショップ	そうですね。中ホールについては、席数は多少減ってもいいのかなという考えではありますので、より快適さを求めるということも考えております。
田中委員	はい、分かりました。第2会議室は変わらないですか。
機シアターワークショップ	会議室の機能としては、そのままですけれども、施設全体としては、壁だとかそういうものはすべて更新する想定でおりますので、ピカピカの会議室にはなりません。
田中委員	なるほど。楽屋もそうですね？
機シアターワークショップ	そうですね。
田中委員	数とか面積は変えずに？
機シアターワークショップ	部屋数を増やすというのは現時点ではないですね。ただ、遮音性能のある部屋を大中ホール2つずつ設けることを検討しております。
田中委員	分かりました。
平野会長	ありがとうございます。
久保田委員	<p>よろしいでしょうか。先程お伺いした中で、音響性能についてのお話がありましたけれども、このところ静岡のホール建築がですね、民間も含めてなんですけれども、残響音が多い=音響がいいというような言い方をして、クラシック寄りに、ある一部はバロックに近い残響音のところもあるんですが、軽音楽系はものすごく使いにくい部分が増えていて、それをやってしまうとクラシックのごく一部の人はすごく喜ぶんですけれども、そうじゃないドラムとか打楽器系の強い、どちらかと言うと軽音楽系がやりにくいなという風に思っています。これから先、どういうコンサルの方、あるいはどういう風な専門家をお願いするときに、バランスを取っていただければと思います。もちろん言い方によるとどっちつかずになってよくないとか色々あるんですが、やっぱり圧倒的に本当の意味で使いたい人はクラシックよりもそうじゃないケースが多くて、静岡市全体で考えた時にはクラシックはAOIもあるのかなとか、清水もあるのかなとかお考えいただいた方がいいんじゃないかなと思います。</p> <p>これは、日常利用ですとか、居場所づくり、創造的活動支援機能に関してもそうなんですけれども、相手が誰なのかということを考えていただければと思います。</p>

	<p>す。本当にクラシック系の音楽家の方々を相手にしているのか、軽音楽でバンドをやっているような人も含めていただけるのか、少し考えていただきたいです。</p>
中島推進監	<p>仰られるとおり、市の方でも A01 があって、マリナートがありますが、市民文化会館の大ホールの今までの利用状況を分析すると、圧倒的に POPs 系の音楽が利用されているはずなんです。中ホールについては、演劇寄り、色んなことに使いやすいけれども、演劇に使いやすい、あと、グランシップの中ホールと比べた時にそれぞれの特性が棲み分けられているように考えて参りますので、音響性能を上げると申し上げても残響音を伸ばすという風には考えておりません。</p> <p>今までの各分野での使い勝手がありますので、そういう事を分析しながら、尚且つ選ばれる施設ということもありますので、どこをターゲットにするかということも検証したいと思います。</p>
久保田委員	<p>よろしくお願いします。</p>
佐々木委員	<p>どこかに書いてあるかもしれないんですけども、練習室というのはどういう練習を想定されているんですか。大きさに言うと、音楽系の音をバンバンだしていいのかなのか、多少体を動かす系のダンスもしていいのかなのか、やっぱり遮音性をアップする部分と空間として机とかがないただの空間なのか、練習室って漠然としているので、どんなものなのでしょうか。</p>
中島推進監	<p>名前の付け方はこれから考えないとならないんですけども、ひとつ 130 と言っているのは、ブラックボックスと言っていますけれども、黒いスタジオみたいな感じ。ある程度音が出せる空間です。位置的にダンスなどにも使えるし、音を出すことも出来る。和太鼓だけは厳しいですけどもね。そういったブラックボックス、スタジオ。それから、360 の大会議室は、平土間の小ホール的なものになっただけかなと思っています。ここは音は出せませんが、演劇とか講演会とか今までの使い勝手が想定されます。一つ一つの部屋に個性をちゃんとつけるという形で進めたいと考えていますので、仮にブラックボックスとホワイトボックスを作るとしても、ブラックボックスは音が出せるけど小さい、ホワイトボックスは小ホール的に使える平土間。これは今の段階の案ですので、またご意見ください。</p>
機シアターワークショップ	<p>練習室については、防音機能を付けるということまでは検討が進んでおります。</p>

	それがダンス向けなのか生音の練習向けなのか、はたまたバンドスタジオ向けなのかというところまではまだ決まっていない状況です。
佐々木委員	ロビー空間の拡張については、中ホールと大ホールの間がもう少し広がるというイメージでいいですか。
機アターワークショップ	大ホールの前に柱が立っているんですが、その柱の辺りまでロビーがのびてくるというイメージです。
佐々木委員	大ホールに入るためのというよりは、憩いの場がもう少し外に出るというイメージですか。
久保田委員	外気から遮断されるというイメージですか。
中島推進監	<p>ガラスに囲われた空間ですね。</p> <p>それこそ、コロナは収まるかもしれないですけども、感染症対策という意味でスペースが必要なので、そういうスペースの問題ですとか、それから、普段使いで人が居られる場所、先程、どういう人がという話がありましたけれども、お金がなくて車がない世代、例えば高校生ですとかが来るような場所になれば成功だという考え方もありますし、とにかく劇場でチケットを買って来る人ではない人が普段来られるような状況を創り出したいと思っています。</p> <p>そのためにも、そういう空間がポイントだろうと考えています。</p>
遠藤委員	たぶん、そういうスペースだと、簡単に考えると電源を用意してWi-Fiを飛ばせばある程度の人は見込めると思います。ですが、その先にそこをどういう風に使うかというのは、ちょっと考えていくともっと魅力的な場所になるかなと思います。
平野会長	確かにそうですね。
中島推進監	その部分は相当研究しなければならないと思っていてまして、フリーランスで新しい働き方をする人たちなんか、スターバックスなんかに行く人もいますけれども、居場所となって、そこでちょっと仕事をするだとか、カフェに行くだとかそういうことが出来る公共施設を増やすこと、イメージ的にはそういう感じです。どういう空間だったらどういう人が来るのか検討して行きたいと思っています。
遠藤委員	行き場のない人って結構いまして、椅子がないんですよね。椅子が取り去られてしまう上に、寒空の下もどうかなという。そういう人たちは、屋根があって、椅子

	<p>があって、電源があって、Wi-Fi が飛んでいけばたぶん必然的に集まってくる気はするんですけども。</p> <p>今は高校生も電源持ち歩いていますし、勉強する人も最近パソコンを開いて勉強する人もいますし、色んな形で利用価値が高まれば、評価が上がるのかなとは思いますが、もう一歩楽しみがそこに出ると面白いかなと。</p>
平野会長	そうですね。
中島推進監	劇場の空間ですから、そこも加味していかなければならないと思っています。
平野会長	確かに。
久保田委員	<p>そのところはすごく難しくですね、今までラクダさんとかその上のレストランとか今までの民間の導入においては正直言うと長い間失敗を重ねてきたというのが目に見えて分かっているものですから、我々民間にいる中で、例えばコンビニの導入ですとか、その辺がものすごく厳しいんですよ。ちょっとだめだとすぐ出て行ってしまふ。出来た時はいいんですが、本当に6ヶ月、8ヶ月くらいですぐ意思決定をして、ここは人が来ないからといなくなりますね。</p> <p>その辺は、相当強い縛りを持って、例えばスターバックスでも、何年まではずっといなきゃだめとか、縛りをするものでないと悪くなればすぐいなくなると思いません。</p>
中島推進監	<p>成功例は、「南池袋公園」とかですね。ウィークデイに働いている人と休日に来る人のベースが違いますので、どうするかですけども、単純な出店にするか、何かの管理と組み合わせるのか、そういうやり方は出来ますので、ひとつ実験的に、ランニングステーションにカフェ作って、小さい舞台を付けていますけど、あそこはランナーの利用よりも飲食の利用の方が圧倒的に多い。実験的にどういう傾向かというのを試しているんですけども、そういうのも含めて、簡単に撤退するような仕掛けではまずいので、そこも考えて行きたいなと思っています。</p>
久保田委員	<p>先程広場の方の議論の中でもキッチンカーという話があったんですけども、例えば東京フォーラムとか前にキッチンカーを並べてますよね。あれはやっぱり簡単なんですよ。催し物がある時は来るけど、ない時はいなくなってくれる、すごく楽なところもありますから、それはぜひお考えいただきたいと思います。</p>

<p>中島推進監</p>	<p>そうですね。ちょっと議論が広がりますけれども、駿府城公園の中の話も出て来て、この間新聞に載ったりもしていましたけど、ここの広場と駿府城公園の中でどういうイベントですとか出来るスペースを作れるか併せて考えていきたいと思っています。</p>
<p>久保田委員</p>	<p>ぜひ、お願いします。</p>
<p>平野会長</p>	<p>今、遠藤委員からのご指摘もありましたけど、Wi-Fiも飛んでいて、ただそこで学生が勉強してればいいという訳でもないと思うので、その魅力をどう作っていくかというのが、大きな可能性を持っている場所ですよ。</p>
<p>中島推進監</p>	<p>全国の成功している場所を、見に行こうと思っていますけど。今は、全然動けないですけど、何が成功しているのか見てみたいので。</p>
<p>平野会長</p>	<p>そうですね。一気に口コミで広がりますからね。</p> <p>他はいかがでしょうか。質問はよろしいでしょうか。</p> <p>では、今日は、宿題が前回出ていたと思いますので。基本理念ということで、ここまで情報が出ていますけれども、これを基に基本理念のたたき台を考えて行きましょうということでしたので、どなたか新市民文化会館に対する基本理念について、何か考えて来てくださった方いらっしゃいますでしょうか。今の思い付きでもいいので。</p> <p>私の方でたたき台のたたき台という形で、昨日事務局に提出させていただいたものがありますので、それを足掛かりとして、皆様のご意見を伺えればと思います。</p> <p>事務局の方で分けてもらってもいいですか。</p> <p>—配布—</p> <p>では、簡単に説明させていただきますけれども、今色んな資料を読み解くと、前回の第2回の資料にもありましたけど、「まちが劇場」の推進の拠点になるという大きなミッションがある施設なので、まずミッションを『『まちが劇場』のハブ HUBとして事業を推進する』そういう施設であると置いてみました。</p> <p>そして、基本理念は、「人やモノ、考え方が行き交う広場」である。ここであえて「広場」という言葉を使ってみました。後ほど説明にも出てきます。</p>

それから、「人間活動を創造する回廊である」。人間活動とあえて大きな言葉で言っていますけど、文化芸術という風に限定的に語らないで、もう少し広い意味で人間が活動するときに生まれ落ちるもの、そういったものを創造する場所である。そして、そういうものを回遊していく、ここの施設単発で終わらないで、色んな施設を可能であれば巡っていくような、せっかくなら行ったのだからちょっとこっちも寄っていこうというような動きのある回廊であつたらどうかという事で、「人間活動を創造する回廊である」と置いてみました。

それから3つめは、「新しい価値を創造する劇場である。」ということで、この「劇場」というのは、もちろん「まちは劇場」とイコールになっています。

基本理念というのはこの3つをたたき台として挙げてみましたけれども、その先にある会館のネーミングも考えてみました。

A案は、真っすぐ「文化会館」の上にショルダーを、「まちは劇場 静岡市民文化会館」という風に置いてみました。これはどういうことかと言いますと、資料をそのまま読ませていただきますと、『まちは劇場』って、静岡市民文化会館が劇場じゃないの？」「いえいえ、文化会館をハブとして、市内全体、そこここが劇場になることが目標なんです。そのハブとなる施設が静岡市民文化会館なんです。「そもそも現在でさえ『まちは劇場』の意図が市民に伝わっていないのでは？」。いえいえ、だから敢えてミッションをショルダーに冠してこの課題に向き合っていくことが大切なのです。つまり、正解ありき、答えありきのショルダーではなく、これから目指していくまだ見えぬ未来の姿をあえてショルダーに据え、静岡市民文化会館をハブに、「まちは劇場」を市民が一丸となって考え、育てていくのです。」ということで1つ提案しました。

そして、B案は、「創造する広場 静岡市民文化会館」です。意図は、「会館を広場に見立てます。え、会館が広場？という疑問を持たれる方もいるでしょう。実は、その「小さな違和感」にこそ耳を傾け続ける場であることがこのショルダーの狙いです。広場は、古来より情報、人、金、モノが行き交う場(メディア)。市が立ち、時として哲学する空間でもありました。静岡市民文化会館は、日々生まれ変わる時代に対応するために、いつもにぎわいがあり、議論が生まれ、思考・試作するための広場であり、新しい価値を創造する静岡市の

	<p>広場でありたい。そんな願いを込めました。」ということで、まずこの2つのネーミングを加えてたたき台として出させていただきました。</p> <p>今日は、私はネーミングまで一気に言っているんですけども、特に基本理念の部分について皆さんのアイデアをいただいて、提案をしていけたらなと思っております。</p>
久保田委員	<p>僕ははっきり言うと「名前」なんですよね。</p> <p>昔からお話しているように、「静岡市民文化会館」ですと、場所の持っているイメージが全然出てこない。市民文化会館という言葉が全国ありとあらゆるところいっぱいあって、外国人のミュージシャンなんか聞くと、「ブンカカイカン」と少し揶揄したように言ってくれるんですけども、もちろん素晴らしいものとは言ってくれるんですが、そういうようなところで、例えば「三の丸劇場」ですとか、そういう風な場所が駿府城のそばにあるというイメージと、「劇場」って言ってしまっているんじゃないかなと思うんですね。「会館」という言葉が「劇場」を意味しているという感覚は今ないんじゃないかなと思います。意見としてですが。</p>
平野会長	<p>ありがとうございます。「まちは劇場」と謳っていますからね。</p>
久保田委員	<p>まさにそうです。A案「まちは劇場 静岡三の丸劇場」とかね。大きく変わったなという印象になると思いますけど。</p>
平野会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>その他に意見はいかがでしょうか。今日は多様な意見を出していただければと思います。</p>
田中委員	<p>市民文化会館という名前は、市民に馴染んでいるんでしょうから、その部分は残してもいいですが、もう少しお洒落な名前がほしいですね。劇場というよくある横文字は、テアトル、シアターとかね、あるいは市の花とか市の木をイメージしたもの、例えば「池田市民会館アゼリアホール」、あれはたぶんさつきが市の花なんですね。あとは、最近できた「堺市民会館」は、「フェニーチェ」。「フェニックス」ですね、何でフェニックスなのか聞くの忘れちゃったけど、おそらく堺市が不死鳥のように再生するという願いを込めてですかね、そういう愛称の使い方もあります。</p> <p>どっちをメインにするかというのもありますけど、何か今風の新しいネーミングを考えて行けたらなと思いますね。「三の丸」というのはいいですね。</p>

<p>久保田委員</p>	<p>実はその中に外来語とか造語でいくっていうパターンも全国にいっぱいあるんですけども、あえて「歴史」というのを押し出していったときには、「三の丸」というような名前が出てくると、例えば「大阪城ホール」だとか、イメージがパッとくるので、そんな言葉があると強いかなと思います。</p> <p>ネーミングの話ばかりしちゃっていますけど。名は体を表すと言いますので。市町村名をそのまま使うというのもどこも同じだなという印象になってしまうので。市民文化会館というのも馴染んでいていいのかもしれませんが、ちょっと言葉として新しくした方がいいんじゃないかなと思います。</p>
<p>平野会長</p>	<p>一方で馴染みがあっていいという意見も…。</p>
<p>久保田委員</p>	<p>市民文化とついていることが大事なんですよね。そのところをどう残すか。</p>
<p>平野会長</p>	<p>今日色々ご説明いただいた中で、基本理念の中でこんなキーワードを入れておいた方がいいよ、ですとか、こんなフレーズを思いついたとか、いかがでしょうか。</p> <p>基本理念となると少し難しい言葉ですかね。でも、ここを共有しておくかおかないかで大きな拠り所になってきますから、基本理念は必要になってくるかなと、何かあった時に立ち返る場所というか。何がどういう風に行われているのか、どういう将来像をここで実現したいのかというのはやっぱり基本理念になってきますよね。</p>
<p>遠藤委員</p>	<p>僕はちょっとギャラリーをやっているんですけど、最初は色んな人に見に来てほしいなと思って、色々努力を重ねたんですが、静岡の方々には中々来てもらえなかったという経緯があって。何かって言ったら、「文化芸術」って敷居が高いという市民的な意識があるみたいな感じがあって、文化に触れたことのある人たちは、当然絵を見て楽しいでしょうってなるんですけど、意外とそう思える人口って少ないのかなと感じたときがあったんですね。結局銀座とかを回って、ギャラリーの人に話を聞いたりとか、巡ったりしたんですが、中々市民的なレベルと言いますか、文化に触れる人たちが圧倒的に少ないかなと思いました。また、若者がそれに乗ってこないというのも結構あったりしたものですから、中々そういった意味では、厳しいところかなとは思いますが。</p> <p>そうやって考えると、「文化会館にすることが文化」みたいな感じの場所にするのはどうかなと思います。何かを観に行ったりとか、何かをしようと思ったりする</p>

	<p>と中々行きづらいとか、私なんて行っていいのかしらみたいになるんですけど、例えば公共の場に色んな人が来て、周りで色んな演奏とか舞台を日常的にやっている場所になっていればそこに電源を借りに来ても、共有できるスペースになればいいなと思います。</p> <p>そうすると、「面白そうだな」とそこから発信して行ける人たち、SNSなどのツールを持っているので、そこにいる事が文化になれば他と差別化も出来るし、文化会館の敷地内にいることがひとつのステータスになればいいなと思います。</p>
平野会長	文化会館にいることそのものが文化であるということですね。
鈴木委員	上野公園にいます、みたいな感じね。
遠藤委員	そうですね。中々文化芸術に呼び込んだりするというのは難しい思いを自分がしちゃったので、やっぱり「場所にいること」かなと思います。
鈴木委員	難しいことは言わないで、そこにいることが憩いの場であり、くつろぎの場であり、結果として文化に繋がっていくという事ですよ。
遠藤委員	そうですね。
久保田委員	<p>遠藤委員のお話を、僕が以前に聞いた体験の話で言うと、昔 80 年代 90 年代はニューヨークの人種差別が悪かった頃の話なんですけど、黒人の子どもたちが行く場所がないという話で、特にジャズコミュニティが何とかしようという話になって、ある程度のところに、その当時の有名なジャズピアニストのバリーハリスという人なんですけど、5ドルで教えるよというワークショップをやるんですね。5ドルで教えるよと言うとそこに教わりたいよという人が集まってきて、毎週必ずやっているんですよ。入れ替わり立ち替わり人が来て。</p> <p>そんな風なことをやっている、黒人の子どもがミュージシャンになろうかなとコミュニティに入ることで夢や希望を持てるようになったという話を 2000 年くらいに聞いた話なんですけどね。</p> <p>そういう風な場所になってくれると、とりあえず来たんだけど、教室を安くやっているんで、やってみようかなとか、それがジャズというのはニューヨーク固有のものですから、また上手く行ったんでしょうけど、集まって来た人間を、何かのコミュニティに繋げるようなイメージがあるといいなと思いますけどね。</p>

平野会長	<p>ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。</p>
成島委員	<p>事務所って2階の奥の方ですか。</p> <p>イメージでロビー空間とか広場に何も用事のない人が滞留する場というのを思い浮かべた時に、誰かがいなくても、人の気配がないと居づらいところがあって、今の文化会館は2階に事務所があって、ロビー棟に誰もいないので、滞在しづらいというか、滞在してもコミュニティに繋がりにくいという印象があります。誰かの目がある状態だと、人が滞留した先に繋がるかなと思いました。1階の奥まったところでいいんですけど。</p> <p>基本理念の方では、平野先生のは素晴らしいなと思いました。</p> <p>市民文化会館は、創造拠点になる訳ではなくて、広場的なことだったり、呼んできたものが上演されて、また行くというようなイメージで、「東海道」みたいなイメージがあるといいかなと思いました。</p>
平野会長	<p>今は静岡も山梨と繋がって、南北のラインも出来ようとしている中で、「道」というのはキーワードになってくるかもしれないですね。</p> <p>そういう意味では、静岡市美術館は、ロビー空間がまさに「人が行き交う場」というのがそもそもの目的でしたよね。</p>
田中委員	<p>そうですね。立地条件もありますし、「まちの中のちょっと面白い広場」というイメージですかね。</p>
平野会長	<p>展示に入らない人でも、ミュージアムショップでお茶飲んだり遊んだり、チラシを見たりして人の滞留がありますよね。</p> <p>SPACの奥側のロビーは、基本的には普段開いているんですか。</p>
成島委員	<p>1階のロビーまでは、人が出入りしていい場にしたいと思って、さっきと逆の話になってしまいますけど、今までは人が自動扉を入るといちいち「こんにちは」と言っていて、何でもない人が居づらいというのがあったので、それはやめようとなって、1階のロビーまでは、人が出入りしていい場にしようということで、本棚を設置したりはしました。</p> <p>ただ、元々あそこはあまり人が通っていないので、公園に向かっていく親子のトイレ利用が割合としては多いかもしれません。</p>
平野会長	<p>なるほど。</p>

	<p>時間も時間なんですけど、事務局すみません、今回のこれは、色んなご意見を伺って、次回もこの話題を続ける時間がありますよね。当然ですね。次回の日程については、後ほど事務局から説明があると思いますけど、今日色々皆さんから出していただいた意見を基に、次回は宿題を必ず提出をお願いします。</p>
久保田委員	<p>今日みたいな感じでいいですね。</p>
平野会長	<p>はい。ネーミングまでは私が流れの中で考えてしまったんですけど、特に基本理念の部分ですね。今までの参考資料を見たり、分からない事は事務局に問合せいただいて、基本理念のところを次回もう少しアイデア出しをしながら、ここでの一案になるのか、複数案になるのか分かりませんが、ここでの指針を出してみたいなと思いますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>はい、では、事務局お願いします。</p>
島田主査	<p>もう一つお手元に配られていると思うんですけど、改修のポイントは今3つのポイントでまとめているんですけど、もっと他にもポイントがあるんじゃないかとか、このポイントは違うんじゃないかというご意見についても、申し訳ないですが、宿題ということで。こちらの紙にポイントと価値と分けましたが、これについてもご意見をお願いしたいと思います。</p>
平野会長	<p>はい。提出期限が12月18日と書かれています。</p>
島田主査	<p>期限については、改めて考えますが、あまり先になってしまうと忘れてしまうので、年内にいただいて、こちらでまとめたいと思っています。</p>
佐々木委員	<p>理念も同じ日ですか。</p>
島田主査	<p>理念も出来れば同じ期限でお願いしたいなと思います。</p> <p>まとめて、次回こういう意見が出ましたというお話が出来ればと思っています。</p>
平野会長	<p>宿題のポイントは、一回出した期日は引っ込めないというのがポイントですので、皆さんよろしく願いいたします。</p> <p>では、一旦事務局に返します。</p>
萩原課長	<p>平野会長ありがとうございました。</p> <p>今回の審議内容等に関するご意見やお気づきの点がありましたら、事務局までご連絡をお願いできればと思います。</p>

一点お知らせで、今配らせていただいたんですけども、遠藤委員にもご協力いただきまして、市民ギャラリーのPR事業として今回初めてなんですけれども、「まちじゅうアート展」を12/10から市民ギャラリーで開催することになりました。

県内の障がいのある方々が、描いたアート作品の展示をやることになりました。私も遠藤委員のギャラリーに行かせていただいて見させていただいたんですけども、本当に素敵な作品が多くて、びっくりしてしまうような作品もあったんですけど、ぜひ市民ギャラリーを知っていただきたいというのがありますし、こういったアート作品が、コロナの中でも気持ちを元気にしてくれるものになるんじゃないかなと思いますので、また、審議会の中でも障がいのある方々に対する事業が足りないんじゃないかというご意見もいただいたものですから、私たちもこういった障がいを持った方との文化事業も続けていきたいなと思っておりますので、新たな取組を始めましたので、ぜひお時間があれば市民ギャラリーの方に足を運んでいただければと思います。

それでは、次回の第4回審議会は、1月12日（火）を予定しております。よろしくをお願いします。時間は午後2時からになります。改めて通知を出させていただきますので、ご予定だけ空けておいていただければと思います。

それでは、以上をもちまして、第3回静岡市文化振興審議会を終了いたします。皆様ありがとうございました。

令和 〆 年 / 月 / 2 日

静岡市文化振興審議会会長

平野 雅彦 

議事録署名人：審議会委員

田中 豊 裕 

